

発刊を祝して

豊田市長 太田 稔彦



このたび、「四郷まちづくりのあゆみ」が発刊されますことを、心からお祝い申し上げます。

本書は、豊田四郷駅周辺土地区画整理事業の竣工にあたり、これまでの四郷駅周辺地区のまちづくりを記録し、これからのまちづくりに生かすことを目的に発刊されました。

昭和40年代のは場整備に端を発した、永きにわたる四郷駅周辺地区のまちづくりに対する皆さまの熱意はひとかたならず、平成20年に四郷駅周辺居住誘導拠点決定を受けると、スピード感をもってその実現へと取り組まれました。

現在、本市では、「つながる つくる 暮らし楽しむまち・とよた」を将来像に掲げ、「つながり」によって多様な価値や可能性を創造するまち、「チェンジ(変化)」と「チャレンジ(挑戦)」によってしなやかに変化し続けるまちを目指し、第9次豊田市総合計画の策定に取り組んでいます。

本書が、四郷地区のまちづくりの変遷を紐解き、地域の皆さまがまちの将来像を描く助けになることを期待します。

最後に、土地改良事業をはじめ、歴史に関する貴重な資料をご提供いただいた福岡銃二氏、本の発刊に尽力されました編さん委員会の皆さまに深く感謝申し上げます。ごあいさついたします。

まちづくりの完成を祝って

豊田市名誉市民 加藤 正一
(6代目豊田市長)



私たちの日常生活において一番の魅力は、充実した生活文化と食文化を享受できるまちの存在です。その望みを満たすまちが四郷地区に実現いたしました。この喜びは四郷地区の皆さまのみならず、豊田市民にとつての喜びでもあります。生活の利便性が一層向上した四郷地区の皆さまには、心よりお祝いを申し上げます。

同時に、この成果を迎えるまでには、関係者の皆さま方に多大なご苦労があったことと拝察いたします。

特に、平成10年の猿投地区まちづくり協議会の発足から、平成20年に四郷駅周辺が居住誘導拠点として決定されるまでの10年間、役員をはじめとする関係者の皆さまには並々ならぬご努力があったこととお察し申し上げます。皆さまのまちづくりにかける想いは熱く、花本産業団地の造成や名鉄の高架事業をはじめとする交通インフラの拡充等、市の事業においてもひとかたならぬお力添えをいただきました。そのご尽力、ご苦心が実を結び、今日の成果につながったことに深く感謝いたします。

この事業は猿投地区のみならず、豊田市北部の保見や石野、さらには藤岡や小原といった広範なエリアにも影響を及ぼす、まさに豊田市全体のまちづくり事業であります。

改めまして、四郷地区の皆さまに心からのお祝いを申し上げます。

新四郷の誕生を祝す

豊田市名誉市民 鈴木 公平
(7代目豊田市長)



新しいまちは、そこに住む人たちによってこそふさわしいまちとして誕生していく……と改めて私は強く感じました。

1988年に開業した四郷駅は、それこそ田んぼの中にポツンと立地していました。「このままでいいわけではない」と地域の人々は動き出しました。駅を生かした新しいまちをつくるか、美田を残し先祖から受け継いだ米作りを続けるか、悩みは深く議論は夜を徹して続いたと後に知りました。

今、四郷駅を中心にして高層ビルが立ち並び、商業、医療、防災など拠点機能も整い、多くの人たちが暮らす新しいまちが誕生しました。

私は、この歴史的事業に深くかかわった人たちを知っています。その中には地域の歴史を掘り下げ、自ら研究し、先人の果たしてきたまちづくりのあゆみの中から、これからのまちのあり方を導き出そうとひたすら努力してきた人もいます。

その熱意と努力、そして信念ともいえる行動力に改めて深く敬意を表します。

これからの世代を超え、その情熱は引き継がれ、ここに暮らす人々による時代に即したまちづくりへの挑戦が続けられていくと信じます。